

21世紀文明シンポジウム

東日本大震災から10年 ～復興の教訓と未来への展望

日時 令和3年1月21日（木）13:00～17:00（YouTube ライブ配信）



東松島市野蒜北部丘陵地区災害公営住宅（提供：宮城県東松島市）

主催：朝日新聞社、河北新報社、東北大学災害科学国際研究所、
ひょうご震災記念21世紀研究機構

後援：内閣府政策統括官（防災担当）、復興庁、総務省消防庁、岩手県、宮城県、福島県、
仙台市、兵庫県、関西広域連合、KHB 東日本放送

開催趣旨

阪神・淡路大震災以降、地震の活動期に入ったといわれる日本列島では、広域にわたる複合災害をもたらした東日本大震災をはじめ、新潟県中越地震、熊本地震など、地震災害が多発しています。

今こそ、人口減少・高齢社会を見据えた復興を成し遂げるとともに、「災後」の教訓や知見を「災前」の備えにつなげ、人と自然との共生、安全安心を優先する“災後の文明”の創造へと歩みを進めていかなければなりません。

こうした認識のもと、東日本大震災10年を機に、復興はどこまで成し遂げられたのか、残された課題にどのように取り組むべきか、さらには東日本大震災の経験や教訓を次なる巨大災害への備えや復興にどのように活かすべきか、といったことについて考えるため、「21世紀文明シンポジウム」を開催します。

プログラム

13:00～13:15 開会挨拶

にしむら 西村	よういち 陽一	(朝日新聞社常務取締役 (マーケティング統括／マーケティング／知的財産／出版／国際担当))
いちりき 一力	まさひこ 雅彦	(河北新報社代表取締役社長)
むらい 村井	よしひろ 嘉浩	(宮城県知事)

13:15～13:55 基調講演Ⅰ

おかもと 岡本	まさかつ 全勝	(元復興庁事務次官)
演 題	「国土の復旧から暮らしの再建へ ―政策の転換とその成果―」	

13:55～14:35 基調講演Ⅱ

みくりや 御厨	たかし 貴	(ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長兼研究戦略センター長／東京大学名誉教授)
演 題	「『災後』10年に見る『復興』日本 ―東日本大震災とは?―」	

14:35～14:45 休 憩

14:45～16:30 パネルディスカッション

「東日本大震災の教訓と未来への展望 ～あるべき復興社会像の実現に向けて」

パネリスト

とば 戸羽	ふとし 太	(岩手県陸前高田市市長)
マリ・エリザベス		(東北大学災害科学国際研究所准教授)
みたらい 御手洗	たまこ 瑞子	(株式会社気仙沼ニッティング代表取締役)
いしばし 石橋	ひであき 英昭	(朝日新聞社仙台総局編集委員)
いたばし 板橋	けいこ 恵子	(エフエム仙台防災・減災プロデューサー)

コーディネーター

16:30～17:00 総括

いおきべ 五百旗頭	まこと 真	(ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長／兵庫県立大学理事長)
いまむら 今村	ふみひこ 文彦	(東北大学災害科学国際研究所長・教授)
たんの 丹野	あやこ 綾子	(河北新報社防災・教育室記者)

基調講演 I



岡本 全勝 （元復興庁事務次官）

1955 年奈良県生まれ。東京大学法学部卒業後、自治省（当時）に入庁。富山県総務部長、内閣・省庁改革本部参事官、総務省交付税課長、内閣総理大臣秘書官などを歴任し、2011 年東日本大震災被災者生活支援本部事務局次長。以後、2012 年復興庁統括官、2015 年同庁事務次官、2016 年内閣官房参与（福島復興再生総局事務局長）2020 年復興庁顧問（現退職）と東日本大震災復興行政に携わる。この間、東京大学客員教授、慶應義塾大学法学部講師等を兼務。主な著書に『東日本大震災 復興が日本を変えるー行政・企業・NPO の未来のかたち』（ぎょうせい 2016 年）などがある。

基調講演 II



御厨 貴 （ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究戦略センター長／東京大学名誉教授）

1951 年東京都生まれ。東京大学法学部卒業。専門は近代日本政治史、オーラル・ヒストリー。東京都立大学教授、東京大学先端科学技術研究センター教授、放送大学教授などを歴任し、現在、東京大学先端科学技術研究センターフェロー、放送大学客員教授、サントリーホールディングス取締役。2017 年よりひょうご震災記念 21 世紀研究機構現職。2018 年紫綬褒章受章。2011 年 4 月より東日本大震災復興構想会議議長代理、続けて 2012 年 2 月より翌年 3 月まで復興庁復興推進委員会委員長代理を務める。主な著書に『「戦後」が終わり、「災後」が始まる。』（千倉書房 2011 年）、『別冊アステイオン「災後」の文明』（共編、阪急コミュニケーションズ 2014 年）などがある。

パネリスト（順不同）



戸羽 太 （岩手県陸前高田市市長）

1965 年神奈川県川崎町生まれ。東京都立町田高校卒業後、会社員を経て 1995 年 4 月より陸前高田市議。2007 年 3 月同市助役に就任、その後副市長を務める。2011 年 2 月の市長選に初出馬、初当選を果たした。市長就任直後に東日本大震災に遭い、復興に向けた新しいまちづくりを進めている。「夢と希望と愛に満ち 次世代につなげる 共生と交流のまち陸前高田」を一番のコンセプトに陸前高田独自の「ノーマライゼーション」という言葉のいないまちづくりを目指している。主な著書に『被災地の本当の話をしよう〜陸前高田市市長が綴るあの日とこれから〜』（ワニブックス【PLUS】新書 2011 年）、『がんばっぺし！ぺしぺしぺし！』（大和出版 2013 年）がある。



マリ・エリザベス （東北大学災害科学国際研究所准教授）

1977 年アメリカ合衆国生まれ。リード大学芸術学部卒業。大学院在学中に起きたハリケーン・カトリーナ（2005）で被災したニューオーリンズ市での泥出しボランティアをきっかけに住宅復興に関する研究を始める。2006 年から 1 年半、神戸大学での交換留学（神戸とアメリカのまちづくり復興の比較研究）を経て 2008 年ワシントン大学大学院建築学科修士課程修了。2012〜2014 年人と防災未来センター研究員。2013 年神戸大学大学院工学研究科博士後期課程修了（テーマ＝人間中心住宅復興）。2014 年から東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究分野助教、2019 年から同所情報管理・社会連携部門准教授（現職）。主に米国、インドネシア、フィリピン、日本における住宅復興政策、地域コミュニティの生活再建支援に関する研究に従事している。



御手洗 瑞子 （株式会社気仙沼ニッティング代表取締役）

東京都生まれ。東京大学経済学部卒業。マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て、2010 年 9 月より 1 年間、ブータン政府に初代首相フェローとして勤め、産業育成に従事。東日本大震災後の 2012 年、宮城県気仙沼市にて、高品質の手編みセーターやカーディガンを届ける「気仙沼ニッティング」の事業を立ち上げる。2013 年に法人化し、現職。規制改革推進会議の委員も務める。好きなものは、温泉と日なたとおいしい和食。



石橋 英昭 （朝日新聞社仙台総局編集委員）

福岡県生まれ。東京大学法学部卒業。1986 年朝日新聞社入社、東京社会部、大阪社会部、論説委員などを経て、2013 年 9 月から仙台駐在を続け、2014 年 4 月から震災担当の編集委員に。大阪社会部デスクだった 2005 年には「阪神・淡路大震災 10 年」の企画を担当。2011 年の東日本大震災当時は、東京本社論説委員として、震災関連の社説を執筆した。

コーディネーター



板橋 恵子（エフエム仙台防災・減災プロデューサー）

エフエム仙台で長年にわたってさまざまな番組の制作を手掛ける中、2004年から東北大学の今村文彦教授（現・災害科学国際研究所長）をパーソナリティに迎えた防災啓発番組『Sunday Morning Wave』を制作。2006年～2010年まで、災害時の非常食レシピを募集する『サバ・メシ＊コンテスト』を企画・実施、日本イベント産業振興協会主催「第3回日本イベント大賞」制作賞受賞。震災後は『サバ・メシ防災ハンドブック』の発行に切り替え、毎年監修を務めている。仙台市・防災会議委員、杜の都の環境をつくる審議会委員。

総括（順不同）



五百旗頭 真（ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長／兵庫県立大学理事長）

京都大学法学部卒業、同大学院法学研究科修士課程修了。広島大学を経て神戸大学法学部教授。その間、ハーバード大学、ロンドン大学客員研究員、日本政治学会理事長などを歴任。2006年防衛大学校長に就任。2011年内閣府復興構想会議議長、復興庁復興推進委員会委員長などを歴任。2012年からひょうご震災記念21世紀研究機構理事長。2018年から兵庫県立大学理事長、2020年から宮内庁参与。文化功労者。サントリー学芸賞、吉田茂賞、吉野作造賞などを受賞。著書に『日本政治外交史』、『米国の日本占領政策』（サントリー学芸賞）、『日米戦争と戦後日本』（吉田茂賞）、『占領期一首相たちの新日本』（吉野作造賞）など多数。



今村 文彦（東北大学災害科学国際研究所長・教授）

1989年東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了。2004年東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター長などを経て、2014年より東北大学災害科学国際研究所長、2015年より東北大学副理事長（震災復興推進担当）。主な専門分野は津波工学、津波防災・減災技術開発、津波数値解析を始めとした流体波動解析、災害被害状況など。津波数値モデル移転国際プロジェクト（TIME）責任者。2015年文部科学大臣表彰（科学技術振興部門）、2016年防災功労者内閣総理大臣表彰などを受賞。主な著書に『逆流する津波』（成山堂書店2020年）、『東日本大震災を分析する』（共編、明石書店2013年）などがある。



丹野 綾子（河北新報社防災・教育室記者）

宮城県仙台市出身。東北大学大学院文学研究科修士課程修了。2002年河北新報社入社。報道部、気仙沼総局を経て、2011年の東日本大震災直後は気仙沼市を取材。2012年から石巻総局で石巻市と女川町の取材を担当。2019年から防災・教育室でNIE（教育に新聞を）などを担当。



（道の駅高田松原から臨む三陸の海）

公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号
TEL：078-262-5713 FAX：078-262-5122
E-mail：gakuju@dr.i.ne.jp URL：https://www.hemri21.jp/